

イデックスオイルレポート ~For a week~

2023/5/19作成 (株)新出光

【概況】<アルバータ州の山火事による原油生産停止・FRBによる一時利上げ停止観測が後退>

●12日、米連邦政府の借入限度額である「債務上限」が速やかに引き上げられない懸念がくすぶっていることに加え、地方銀行の信用不安の再燃が景気の重荷となっています。このためエネルギー需要が鈍化するとの見方から原油売りが優勢となりました。また、中国の4月の消費者物価指数(CPI)の伸び率は前月よりも鈍化した。工業部門で新型コロナ規制緩和後の回復に疑問符が付き、石油需要が減退し相場は70.04ドルへ続落しました。

●15日、リセッション(景気後退)懸念などを背景とした原油売りの流れが一巡し、この日は供給逼迫への警戒感が高まったことから、買いが先行しました。米政権が戦略石油備蓄(SPR)の補充開始を計画していることや、カナダのアルバータ州の広範囲で発生していた山火事により、前週、少なくとも日量30万バレルの原油の生産が停止されたことなどが背景。カナダは世界4位の産油国で、生産の約80%をアルバータ州が占める。また、外国為替市場で対ユーロでドルが軟化したこともドル建て商品の割安感につながり、原油の買いを後押し相場は71.11ドルへ反発しました。

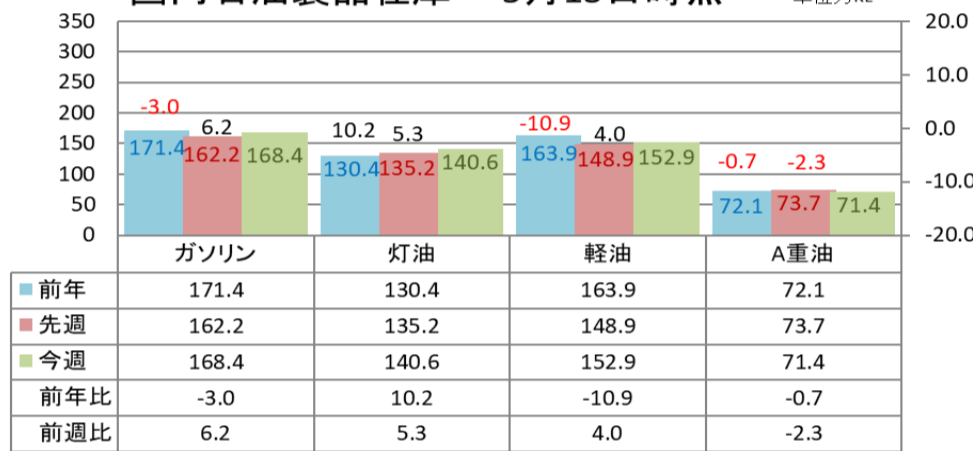
●16日、4月の米小売売上高は前月比0.4%増(3月は0.8%減)とプラスに転じたものの、市場予想(0.8%増=ロイター通信調べ)を下回りました。加えて、4月の中国の鉱工業生産と小売売上高の伸びがともに市場予想を大幅に下回りました。一連の低調な指標内容を受けて、エネルギー消費大国の景気回復ペースを巡る先行き不透明感が台頭し相場は70.86ドルへ反落しました。

●17日、国際エネルギー機関(IEA)が前日に公表した石油市場月報で、今年後半の需要量が供給量を日量200万バレル上回るとの見通しを明らかにしました。また、今年全体の世界の需要予想も日量20万バレル上方修正しており、需要拡大期待から原油買いが優勢となり相場は72.83ドルへ反発しました。

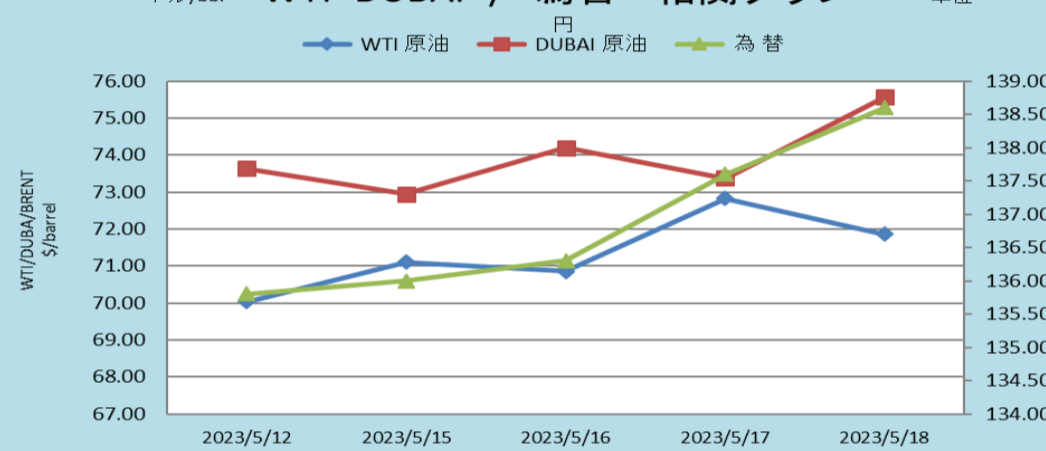
●18日、朝方発表された一連の米経済指標は景気の底堅さを示唆するような内容で、米連邦準備制度理事会(FRB)による一時利上げ停止観測が後退。対ユーロでドルが上昇し、ドル建て商品の割高感が意識され、原油は売りが先行し相場は71.86ドルへ反落しました。

5月19日 16:00現在 WTI原油 72.44ドル 為替 1ドル 139.41円

国内石油製品在庫 5月13日時点



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ



	次回元売変動予測	
	5/25~	元売変動予測
ガソリン	➡	±0.0~+0.5
灯油	➡	±0.0~+0.5
軽油	➡	±0.0~+0.5
A重油	➡	±0.0~+0.5
LSA	➡	±0.0~+0.5

【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「-1.0円」、補助金は、「-10.5円」、都合「+2.6円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの15日時点の小売価格平均は167.8円となっております。

《5月20日以降》次回の元売り改定は、原油コストは、「+0.5~+1.0円」、激変緩和補助金は「-11.0円」の見込みで、都合「±0~+0.5円」の改定の予測となっております。

※原油コスト「+0.5~+1.0円」
 ※激変緩和補助金「-11.0円」前週比+0.5円
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】<住友ゴム、日本初「製造時カーボンニュートラル」の量産タイヤを製造する福島県 白河工場>

住友ゴム工業白河工場は、東京ドームおよそ13個分=60万m²の敷地面積を持ち、従業員1600名超と、住友ゴムグループの中でも国内最大級の工場、操業も1974年と歴史も長い。また、コンパクトな製造工程で高性能なタイヤを生産できる高精度メタルコア製造システム「NEO-T01」が配備されているのは白河工場のみ。このNEO-T01は製造工程がまとまっていて、通常のボイラーから水素ボイラーへの転換が容易であったこと、次世代エネルギーにふさわしい最先端の製造工程で高性能なタイヤを作れることから、水素エネルギーの導入を決定したという。

燃料となる水素は、福島県内にあるレゾナック・ガスプロダクツ(郡山市)、福島水素エネルギー研究フィールド(浪江町)の2か所から供給を受けていて、専用トレーラー4台で循環させ、水素エネルギーの地産地消という実証実験も踏まえて行なっているという。トレーラーで運ばれてきた水素は、一度にたくさん運べるように約200倍にまで圧縮してあり、2段階の減圧を行なってからボイラーに利用される。トレーラーの最大運搬容量は1万4355Lで、NEO-T01加硫工程で使用される1日以上分を運んでいるという。専用駐車場には水素を取り出す装置が備わっていて、まずここで1段階目の減圧が行なわれる。そのあと、排水溝の中のパイプを通してNEO-T01のある建屋の隣の水素ボイラーまで運ばれる。水素ボイラーの煙突からは水蒸気の煙が出ているが、もちろんCO₂の排出量はゼロだ。また、NEO-T01は加硫工程で水素を活用しているが、それ以外の部分の電力は太陽光発電によるクリーンな電気を利用している。これにより製造時(Scope1 & 2)カーボンニュートラルを達成している。